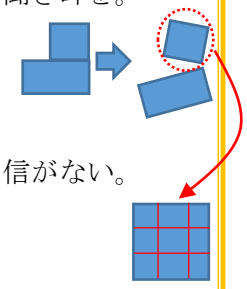
榆木小学校　学校通信
No.３４
なりたい自分になる！
PLUS ULTLA
令和６年１２月２０日
文責　余宮

18 日の授業参観・懇談会には、寒い中にもかかわらず多数ご参会いただき大変ありがとうございました。

PLUS ULTRA 秘訣４　時間が許す限り熟考する

４年生の算数の授業中。今日の問題は複合図形（下図）の求積です。面積を学んですぐの４年生には非常に難解です。けんたさん（仮名）が悩んでいるようです。ちょっと聞き耳を。



「『切る』って友達が言っていたから…（と、長方形と正方形に分ける）正方形の一辺が３㎝で、こっちも３㎝…（と、辺の長さを測る）

正方形の面積　長方形の面積
３×３＋２×７＝２３？　答え２３㎠？」（ルビは私がつけました）

いろんなところに？を付けながら、一応答えを求めたようです。が、どうも自信がない。今度は、１㎝のマスを書き始めました。

「１㎝ずつ引いてみると…ああ、だからかけ算でできるってことか？」

よく見ると、９つの正方形に分けられていることがわかります。なるほど、面積だ。

さらに、友達の方法を聴きながら、けんたさんもそれに応じるように新しいアイディアが湧いてきます。切り分けたり、埋めたりしながら。あ～そうか、正方形や長方形にさえできれば、計算で面積を求めることができるってことか。腑に落ちていったようでした。

けんたさんのすごさは、答えが出ても自分の？を無視せず、自分が納得できるところまで考え続けたことではないでしょうか。

熟考することの大切さを、私は学びました。

けんたさんが答えを一応出した時点で考えることをやめたとしても、テストでは多分 100 点。しかし、けんたさんはここでやめない。なぜ「かけ算」で面積が求められるのか、自分の記憶を裏付ける意味を一人で探っていきます。１㎠ずつのマスに分けることによって。さらに、友達の意見を傾聴することで、自分が意味づけたことを改めて深く意味づける。パラレルで自分でも新しい方法が見つかりだす。なるほど、正方形や長方形に分割する意味や別の問題にも生かせるよう、統合的に考える見方や考え方をつかむことができたのです。

とても深い学びです。

今回の問題は、非常に難解です。ただ、見えている数字をどうにかすれば答えが当たることもある。なんとなくでも、できないわけではない。ただ、そこにとどまれば多くの場合、ちょっと状況が変わってしまうとまったくわからない。ガーン。

アメリカのジャーナリストで哲学者のヘンリー・ルイス・メンケン氏は、皮肉も込めて、次のような言葉を残しています。

「どんな複雑な問題にも、決まって短く、単純で、間違った答えがある」

人間は、思考を怠けてしまう傾向があることが様々な実証検証で明らかになってきました。ほっておくと、まあいいか、と自分の中の？を見なかったことに自然とできちゃう。それも、意識もせずに。だから、意識して熟考することが大切なのだと思います。今日のけんたさんは、間違えなく意識して熟考しています。なぜそれができたのか。私は、自分が納得できないときに？を付ける、というけんたさんの習慣に秘密があると思います。無意識を意識化するためには、このような自分なりの習慣がとても効果を発揮するのではないかと、私はけんたさんから学びました。